

巻頭言

懐徳堂センター室長 奥平俊六

懐徳堂の学問は、実際の教養を身につけるために町人向けに工夫されたものでした。内に籠もる学問ではなく、扉はいつも外に向けて開かれていました。わたしは懐徳堂のことを考えるたびに「よき商人」の伝統に思いをさせます。一過性の儲けは、本当の利潤ではなく、得たものから公に還していく。よく商売することはリベラルな感覚を育み、そしてリベラルな商人の住む町はさまざまな意味で豊かになる。学問も本来はそうした循環の豊かさの上に成り立つものではないでしょうか。江戸時代から「よき商人」の発想や生き方を支え続けた懐徳堂の学問は、いままさに新しいのではないかと思うのです。

懐徳堂センターは、懐徳堂資料および文学研究科関連資料の管理と展示・広報のために平成十三年に設置された文学研究科の付属施設です。平成十四年三月の「須田国太郎 能・狂言デッサン」展を皮切りに、さまざまな活動を展開してきま

した。平成十四年に設置された大阪大学総合学術博物館の企画展（於 大阪歴史博物館）への出展、また常設展示室での懐徳堂資料の公開も続けています。

「能・狂言デッサン」展は、須田国太郎画伯が三十年余りにわたって描きつけられたデッサン五千枚余をご遺族より文学研究科にご寄贈いただいたのを機に、それを整理し公開したものです。また、大阪歴史博物館の展示では「バーチャル懐徳堂」や「天図」「方図」などを出展するとともに、センターの委員が「江戸時代の天体模型図」と題するミニレクチャーを行いました。常設展示室の資料は、来訪した高校生にも見てもらいました。現在HPにおいて情報公開を進めており、財団法人懐徳堂記念会と協力して「電子懐徳堂考」のCD-ROMも出しました。今後より多くの人に懐徳堂の古き知恵に親しんでいただくように、情報発信の場としてここにセンターの広報誌を公刊するものです。